

令和5年度全建賞 推薦調書
インフラ整備の事業又は施策の部(インフラの部)

ふりがな	みちのえきあがの
1. 事業(施策)の名称	道の駅「あがの」
2. 事業(施策)実施期間	平成28年 4月 1日 ~ 令和5年 3月31日
3. 事業費(工事費)	2,536百万円
4. キーワード	子育て世代に向けた憩いの場
5. 事業概要	
<p>道の駅「あがの」は、平成12年度に事業化された、新潟県阿賀野市の水原バイパス整備事業に併せて、国との一体型手法により整備し、令和4年8月4日にオープンした。</p> <p>市内外の交通結節点としてバイパスに隣接する立地を活かし、「集客・交流」「情報発信」「物流」「防災」の広域的な拠点施設として整備し、移住・定住促進のため、観光案内所に移住・定住案内窓口を設けるとともに、子育て世代に向けた憩いの場として、遊具を備える広場やキッズスペース、ベビーコーナーを整備した。</p>	

6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」		
ハード or ソフトの分類 :該当する方に○印	① ハード面 に秀でた事業	② ソフト面 に秀でた取組
アピールする 1)「手段」	(i) その他(防災拠点、浸水対策)	(c)情報発信(防災情報) (i) その他(防災拠点機能)
アピールする 2)「秀でた成果」	(c)ライフサイクルコストの削減 (e)良好な景観形成の実現 (f)地域の活性化 (h)バリアフリー・ユニバーサルデザインの実現	(c)ライフサイクルコストの削減 (e)良好な景観形成の実現 (f)地域の活性化 (h)バリアフリー・ユニバーサルデザインの実現

7. 特にアピールしたい点
<p>阿賀野市は県都新潟市に近く暮らしやすい環境を整え、移住・定住促進に力を入れている。</p> <p>今回、オープンした道の駅「あがの」の地域振興施設は園地の部分も含めて、移住・定住の促進を図るため、ファミリーをターゲットにした、大型遊具の設置(室内も含む)や30~40代の母親をメインターゲットとした商品展開等を行っている。</p> <p>このようなコンセプトを踏まえ、トイレについても、授乳室だけではなくファミリーが使いやすいよう、子供専用トイレ、乳幼児対応ブースを設置することともに、男子トイレ・女子トイレの導線の工夫、母親が身だしなみ等を整えられるよう女子トイレにパウダーコーナーを設置した。</p> <p>冬期でもファミリーが楽しめるよう地域振興施設には室内の大型遊具もあることから、駐車場は冬期でも円滑に利用できるよう消雪パイプを設置するとともに、コンクリート舗装とすることで維持管理費の削減を図っている。</p> <p>この結果、来場者数の目標は年間50万人であったが、ファミリー層の来場が多く、実際はオープン1年で75万人の来場があった。なお、75万人は新型コロナウイルス感染症流行期前の阿賀野市観光入り込み客数の6割に当たる。</p>

8. 事業を代表する写真及びキャプション

【位置図】



【全景】



9. 事業内容・添付資料

【事業概要】

道の駅「あがの」は、阿賀野市総合計画、阿賀野市道の駅整備検討委員会の検討結果を踏まえ平成29年6月に公表された「阿賀野市道の駅基本構想」に基づき、平成12年度に事業化された、新潟県阿賀野市の水原バイパス整備事業と併せて、国との一体型手法により整備し、令和4年8月4日にオープンしたものである。

(施設概要)

面積: 34,210㎡

- 施設: 駐車場160台、トイレ44器、情報提供・休憩施設、観光案内所、ベビーコーナー、非常用電源、備蓄倉庫、貯水槽、公衆電話、公衆無線LAN、物販施設、飲食施設、キッズスペース、多目的広場、屋根付広場、EV充電施設



図一① 道の駅あがの 全景



写真一① 道の駅あがの 正面



写真一② 屋外遊具

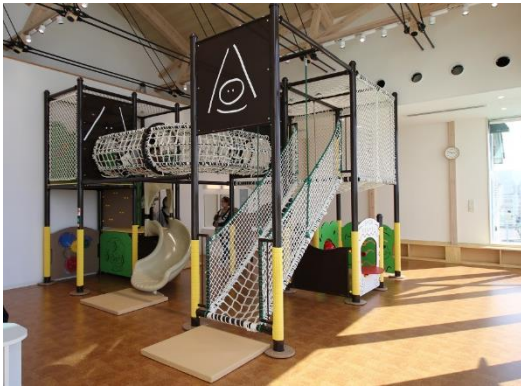
道の駅「あがの」は、『白鳥の空・恵みの大地が織り成す阿賀野市の交流・賑わい・未来交差点』を整備コンセプトとして、阿賀野市の入り口である京ヶ瀬地区に整備された道の駅である。

市民と利用者に愛され、多くの人が集う『いやしの空間』として、市民の憩いの場、また、子育て世代と高齢者が集い楽しく快適に過ごせる場として、子育てや軽スポーツ、観光等様々な活用ができる施設となっている。(図一①)

また、地方創生に向け、地域資源の活用と交流を図るとともに、地域情報を発信する『にぎわいの空間』として、阿賀野市の産業や観光の活性化及び都市農村の交流拠点の形成を図り、地場産品等販売スペースや飲食スペースでは地域の農産物などを中心に取り扱い、観光案内所では市内観光地(瓢湖や五頭温泉郷など)と連携し、情報発信を行っている。

施設の形状は、阿賀野市の自然や田園景観を、当市固有の自然的景観形成要素として捉え、当市のシンボルである五頭山をイメージした意匠を採用している。(写真一①)

9. 事業内容・添付資料



写真一③ 屋内遊具

道の駅には、阿賀野市への移住・定住の促進を図るため、ターゲットであるファミリー層に向けて憩いの場を整備し、屋内・屋外に遊具を設置した。屋外遊具には瓢湖の白鳥、安田の牧場の牛など、阿賀野市を代表するモチーフを使用している。(写真一②)

荒天時や冬期でも子育て世代が利用しやすいよう、地域振興施設に市民の子育て拠点となる子供向け屋内休憩施設(プレイルーム)を整備し、室内にも大型遊具を設置し、休憩や遊び場となるスペースを設けている。(写真一③)



写真一④ 子供用トイレ



写真一⑤ 乳幼児対応ブース

メインターゲットである子育て世代への配慮として、いつでも利用できる快適なトイレを提供し、子育て世代に便利な空間を確保するために、授乳室や子供専用トイレ(写真一④)、乳幼児対応ブース(写真一⑤)を設置した。



写真一⑥ 女性用トイレ



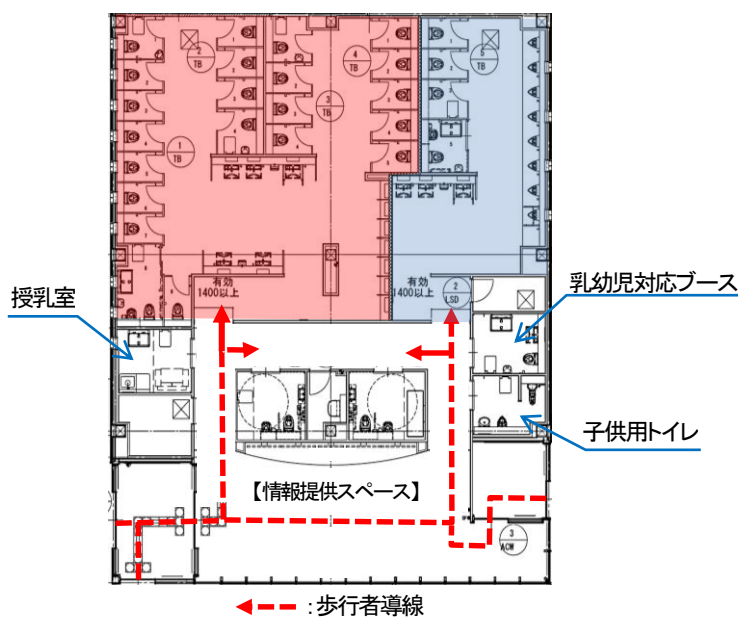
写真一⑦ パウダーコーナー

授乳室にはエアコンを完備し、夏や冬でも快適に利用でき、体温調整が難しい乳児にも配慮している。

子供専用トイレと乳幼児対応ブースは、誰でも利用することができ、母親以外の付き添いでも気兼ねなく利用ができるよう配慮した。

また、女性用トイレ(写真一⑥)では広めのスペースを確保するとともに、身だしなみを整えられるようにパウダーコーナー(写真一⑦)を洗面台とは別に設置し、利便性向上を図った。

授乳室、子供用トイレ、乳児対応ブースは、トイレの周辺に設置することとしたが、付き添いが母親以外の場合も想定し、屋外からの歩行者線をどこからでも利用できるよう通路を整備した。(図一②)また、男女トイレは壁をクランク状に設置し、自然に視界を遮るように配慮している。



図一② トイレと周辺のレイアウト

9. 事業内容・添付資料



写真-⑧ 駐車場消雪パイプ設置状況

駐車場の舗装については、維持管理費のコスト削減を図るため、耐久性の高いコンクリート舗装を採用した。
道の駅「あがの」が位置する阿賀野市は、降雪地域であるため、冬期の利用者利便性向上、いつでも施設を利用できるように消雪パイプを設置している。(写真-⑧)



写真-⑨ 非常用電源



写真-⑩
情報提供用モニター

道の駅「あがの」は防災拠点に位置づけられ、国道49号沿道に位置する交通アクセスの利点を生かし、広域的な支援活動や救援物資の集配、情報の収集・提供等、災害時における「人」「物」「情報」を集約する防災機能を有する。当該道の駅は、阿賀野川に近接しているため、浸水対策(盛土)を行い、防災機能として非常用電源などを整備している。(写真-⑨)

また、道路情報提供用のモニターだけでなく、河川情報提供用のモニターも設置しており、情報提供内容の充実を図っている。(写真-⑩)

【事業の成果】

当初、開駅1年で来場50万人を目標として開業したが、令和4年8月4日のオープン以来、連日多くの来場者があり、約1ヶ月後の令和4年9月6日には来場者10万人を達成し、令和5年4月6日には予定より4ヶ月も早く来場者50万人を達成した。また、開駅1年後の令和5年8月4日には、来場者が75万人となっている。



写真-⑪ 開駅時の様子

道の駅「あがの」は、阿賀野市では初となる道の駅で、阿賀野市民だけでなく、周辺地域の方からの利用もあり、人気を集めている。



写真-⑫ 屋外遊具の様子

道の駅といえば、地域の特産遺品販売や飲食に注目されがちであるが、当該道の駅では、子供たちが遊べるキッズスペースや遊具類を充実させることで、多くの家族、親子連れが道の駅に訪れる目的のひとつになっている。

このような施設と子育て世代に配慮した子育て支援施設を整備した道の駅は、子供を連れて利用できる安心材料として効果が期待できる。



写真-⑬ 屋外遊具の様子



写真-⑭ 屋内遊具の様子